

<基となる事例>

「みんなでもっとおもしろくしよう -巧技台遊び-」

【活用事例】 「巧技台遊び 自分たちだけのスペシャルコース」
～コースを作ろう!やってみよう!～

事例活用の理由

子供たちは、自分なりの考えをのびのびと伝えることができる。その一方で、伝えたいという思いの強さから、友達や教師の話を聞く場面で話を最後まで聞くことができなかつたり、途中で話し始めてしまつたりすることがある。

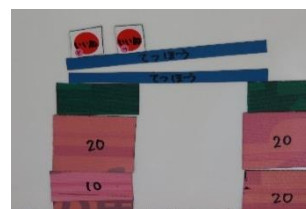
「自分らしさを発揮する子供、人と関わるのが楽しいと思う子供」の姿を目指し、友達と思いや考えを伝え合いながら、巧技台のコース設計図を作り、巧技台遊びをする実践を取り入れた。この遊びをとおして、友達と思いや考えを伝え合いながらコースを作り、完成したコースで遊ぶことの楽しさや達成感を感じられると考え、事例を活用した。

保育者の願い(ねらい)

- 友達と思いや考えを伝え合つて巧技台のコース設計図を作り、協力して巧技台の「スペシャルコース」を作つて遊ぶことをとおして、友達と一緒に活動することの満足感を味わう。
- 自分の思いを伝えると共に、友達の話に耳を傾け、いろいろな考えがあることのおもしろさを感じる。
- 巧技台の「スペシャルコース」で、自分なりの動きを試したり、友達の動きを真似たり、更に新たな動きを考えたりして、多様な動きを楽しみ、元気な体づくりをする。

アレンジした点・工夫した点

- 自分たちで話し合い、協力して作った巧技台の「スペシャルコース」で十分に遊んだ後、そのコースについて振り返りをする。
 - ・「巧技台磁石」を貼つて自分たちの「スペシャルコース」を表現したミニホワイトボードと「『いいね!』磁石」を準備する。
 - ・コースの「楽しかった・ドキドキした・難しかった」と感じたところを振り返り、1人ずつミニホワイトボードに「『いいね!』磁石」を貼る。
- 「『いいね!』タイム」を設定し、ミニホワイトボードを使ってグループごとに「スペシャルコース」を紹介し合う。その後、工夫して作ったコースをお互いに体験する時間を設け、その良さを共有できるようにする。



これまでの経緯

- 巧技台を自由に使つて遊ぶ中で、階段や一本橋を作るなど、巧技台を使いながら色々なコースを作つて遊ぶ体験ができるようにした。
- 「巧技台磁石」とホワイトボードで作成した設計図と同じコースを組み立てる経験ができるようにした。その後、組み立てた巧技台を使つて多様な動きを引き出し、その楽しさを味わえるようにした。

当日及びその後の活動の様子

- 各グループで作った巧技台のコース設計図（ミニホワイトボード・「巧技台磁石」）を見せて、これまでの活動の振り返りをする。実際に、どんなコースができるのか、期待を膨らませ、遊びへの思いを高められるようにする。
- 巧技台のコース設計図を基に、グループの友達と協力して「スペシャルコース」を作る。
- 他のグループの友達と使いたい巧技台が重なった際には、お互いに思いや考えを伝え合い、解決できるようにする。教師は必要に応じて思いや考えを伝え合う橋渡しをしたり、整理をしたりして、お互いに理解し合えるように援助をする。
- 完成したグループから巧技台の「スペシャルコース」で遊ぶ。
- 多様な渡り方をしている子供を認め、その動きを紹介し、子供たちの動きのバリエーションが増えるようにする。
- ミニホワイトボードを使ってグループごとにそのコースについて振り返りをする。コースの「楽しかった・ときどきした・難しかった」と感じたところを振り返り、1人ずつミニホワイトボードに『いいね!』磁石を貼る。
- 全グループごとに、「スペシャルコース」を紹介し合う『いいね!』タイムを設定する。保育者はその巧技台の場のおもしろさや良さがみんなに伝わるよう、話の補助をする。
- 工夫して作ったコースをお互いに体験する時間を設け、その良さを共有できるようにする。
- グループごとに安全に気を付けながら協力をして片付けをする。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 巧技台のコース設計図を作るために、自分の思いや考えを言葉にして表現したり、友達の話を聞いたりしていた。
(言葉による伝え合い) (協同性)
- いろいろな形をした「巧技台磁石」を使って、自分たちの作りたい巧技台のコースを考え、表現していた。
(言葉による伝え合い) (数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- 様々な巧技台を組み合わせた場で、自分なりの渡り方を試してみたり、友達の動きを真似たりしながら、繰り返し巧技台遊びを楽しんでいた。
(健康な心と体) (自立心)
- 自分たちの作ったコースの良さを振り返ったり、友達のコースの良さを感じて楽しんだりした。
(思考力の芽生え) (豊かな感性と表現)
- 友達と協力して巧技台を準備したり、片付けたりした。
(協同性)

基となる事例を活用しての成果

- 『いいね!』磁石の活用により、各グループの工夫点や個々の子供の感じたことを可視化しながら、クラス(学級)全体で共有し巧技台遊びを楽しむことができた。
- 後日、4歳児の子供たちの巧技台遊びコース作りをした。その際、子供たちは、どれぐらいの難易度のコースを作ると良いかを自分たちの経験をいかして、話し合うことができた。
- 運動会の障害物走において、本事例のようにコース設計図をマグネットを使って示すと、子供たちは自分たちで準備をすることができた。障害物走を行うだけでなく、自分たちで準備もできたことに、子供たちは満足感を得られたようであった。

